

2025 第 1, 2, 3 RUTC 永遠の答えの始まり

2025 年元旦祈り会 3 講

まことの復興-光の道しるべ

講師 柳光洙牧師

日/場所 2025 年 1 月 1 日/インマヌエル教会(ソウル)

'25.01.01 元旦 3

質問?
試み?
答え?

光のやぐら	光の経済
創 1:3、イザ 60:1-2 ヨハ 1:11、14 I ペテ 2:9	巡礼者の祈り
②4 25 永遠	集中の奥義
残りの者、残る者、残れる者、残す者	

序

1.すべての人、こと、状況 (RT7)

2.JX-弟子-群衆

3.パウロ-ピリ 1:12-14
ピリ 2:6-11
ピリ 3:8-21
ピリ 4:4-13

まことの復興-光の道しるべ

「創造的祈り-再創造」

本-今

<p>1.だまされないこと 御座 1)霊的なこと 2)Θの計画 3)Throne</p>	<p>2.あらかじめ持つこと 神の国 1)あらかじめ味わう (7やぐら) 2)あらかじめ答え (7旅程) 3)あらかじめ-力 (7道しるべ)</p>	<p>3.光の道しるべ 神の国のこと 1)9:1-10 11:25-26 18:1-4 (1)カルバリの丘 (2)オリーブ山 (3)マルコ (4)アンティオキア (19:8)</p>
---	---	--

結

1.答えられるところ

1)申 6:4-9 2)I サム 7:1-15
3)I 歴 29:10-14 4)II 列 6:8-24
5)イザ 62:6-12

2.最高のこと

1)3庭 2)金土日時代 3)黙想時代

3.願われること

-義人-

2) 3)
13:1-12 19:21
14:14-26 23:11
15:36-41 27:24
16:6-40 ロマ 16:17-20
17:1-9 ロマ 16:25-27
18:1-4
19:1-21

要約

日が経つにつれ、激しい対立をするようになってわざわいが臨む。すると、信仰の人々はどのように勝ったのか。光のやぐらを建てた、この光だけが暗闇に勝つことができるためだ。

創 1:3、イザ 60:1-2、ヨハ 1:11、14、I ペテ 2:9

この光は創造の光だ。この光をみことばで受けて伝えた人々がわざわいを止めた。滅びの中で起きよ輝け。イエス様が光として来られた。このみことばを握る者に神様の働きが始まるのだ。この光を宣べ伝えるために私たちを呼ばれた。

24、25、永遠 祈りで始めることができるならば、24 祝福を味わうようになって、一日を祈りで終えることができるならば、必ず光のやぐらを建てるようになる。すると確かに 25 が来て、必ず永遠の作品が出てくる。

残りの者、残る者、残れる者、残す者 それゆえ、残りの者、残る者、残れる者、残す者の祈りが始まるのだ。

巡礼者の祈り 難しい道を行かなければならないので、巡礼者の祈りだ。

集中の奥義 一日に一度は必ず集中の奥義を持たなければならない。

光の経済 このようになれば、光の経済が回復する。教会を生かす経済、宣教経済、レムナント経済が回復しなければならない。

まことの復興-光の道しるべ 私たちにはまことの復興が起きなければならない。そのときから、光の道しるべを建てるのだ。

「創造的祈り-再創造」 この祈りが創造的祈りだ。創造は神様がなさるが、私たちに再創造の祈りが始まるのだ。皆さんの身分と権威によってこの祈りをするようになるのだ。

△この三つが分かれば、質問することがなく、試みにあうこともあまりない。答えが何か尋ねる必要もない。

□序論

1. すべての人、こと、状況 (RT7) すべての人、すべてのこと、すべての状況を受容しなさい。

2. JX -弟子-群衆 イエス・キリストが二つの方法を使われた。弟子と群衆。

3. パウロ

ピリ 1:12-14 パウロが監獄の中に今いる状況だ。パウロは神様の最も大きな計画が成り立っていると言った。

ピリ 2:6-11 パウロに苦難が来た。キリストも苦難を受けられたと答えた。

ピリ 3:8-21 今までたくさん自慢したこと-私はちりあくたと考える。今まで地で得たこと、私は上から召された賞を探す。ローマ市民権-私たちは天国の国籍を持った。今まで私たちが多くの働きをしたのか。キリストの手で捕えられたそれを捕らえに行く。私たちの国籍は天にある。背景を話した。

ピリ 4:4-13 喜びなさい。何も思い煩ってはならない。感謝をもって神様に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神様の平安があなたがたの心、思いを守ってくださる。私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできる。重要なのは現住所だ。私を強くしてくださる方によってだ。

□本論_今

光の道しるべを建てるには、今どんなことが起こっているのかを知らなければならない。

1. だまされないこと **御座**

御座の働きが起こっている。祈る時間にだまされなければ、天の軍勢が動員される。信じなければならない。

1) 霊的なこと それゆえ、霊的なことが先に起きてこそ、答えが始まるのだ。

2) 神様の計画 この御座の力を信じて祈れば神様の計画が成り立つ。

3) Throne 皆さんが行く所はノーバディー(nobody)だ。皆さん行く道はナッシング(nothing)だ。なぜそうなのか。御座の背景でしなければならない。皆さんの背景は御座だ。

2. あらかじめ持つこと **神の国**

御座は背景だ。これから来る答えが神の国が臨むことだ。

1) あらかじめ味わう(7やぐら) 祈りで神の国をあらかじめ味わうのだ。

2) あらかじめ答え(7旅程) あらかじめ答えを受ける。7旅程。

3) あらかじめ-力(7道しるべ) あらかじめ力を受けることを指して7道しるべと言う。

3. 光の道しるべ **神の国のこと**

いよいよ神の国のことが成り立つ。これが道しるべだ。

1) 使 9:1-10、15 ダマスコに行くときにキリストに会ったのだ。キリストで終わった。15 節にわたしの名を王たちの前に運ぶためにあなたを呼んだと言われた。

使 11:25-26 その契約を握ってアンティオキア教会に行ったのだ。そこでバルナバに会った。

使 18:1-4 宣教地域でマルコの屋上の部屋に参加していたプリスカ夫婦に会った。ここで四つの道しるべが出て来る。

(1) カルバリの丘 そこに行ってもいなかったのに、カルバリの丘の道しるべ

(2) オリーブ山 オリーブ山の道しるべ

(3) マルコ マルコの屋上の部屋の道しるべ

(4) アンティオキア いよいよアンティオキアの道しるべ

(使 19:8) その証拠で神の国について大胆に説明した。

2) 使 13:1-12 完ぺきに聖霊の導きを受けた。聖霊が人、場所、ことを完全に導かれた。暗闇が打ち砕かれて絶対やぐらが建った。総督が恵みを受けた。

使 14:14-26 時代的な道しるべ、テモテが出てきた。

使 15:36-41 バルナバとパウロが争う。なぜ争ったのか。絶対道しるべを建てなければならないためだ。

使 16:6-40 復興の、光の道しるべを建てるその瞬間だ。門が閉ざされたとき、動かずに祈るとマケドニアに導かれた。リディアに会った後に悪霊につかれた者を治し、監獄に働きが起こった。

使 17:1-9 会堂に入った。ここでキリストについて確実な説明をした。ここがテサロニケだ。キリストのやぐらを建てたのだ。

使 18:1-4 いよいよプリスカ夫婦に会ったのだ。

使 19:1-21 祈ってマルコの屋上の部屋にあった働きがそのまま起こった。そして、ティラノに入った。光の道しるべが建てられた。建てなさい。必ずある。

3) 使 19:21 ローマも見なければならぬ。そうだ。確実な神様の道しるべを建てたのだ。

使 23:11 神様が引用される。勇気を出しなさい。ローマでも証ししなければならぬ。

使 27:24 パウロ、恐れてはならない。カエサルの前に立ちます。

ロマ 16:17-20 行く道にサタンがひざまずく働きが起こるようになる。

ロマ 16:25-27 隠されていたことを神様が持って来てくださる。これが本当の答えだ。

□結論

1. 答えられる所

1) 申 6:4-9 レムナントを集めて、今まであったすべてのことを刻印させなさい。

2) I サム 7:1-15 ペリシテを言い訳にせずに、すべての民はミツパに集まりなさい。

3) I 歴 29:10-14 ダビデが一生を祈って神殿準備をしたのだ。

4) II 列 6:8-24 ドタンの町だ。神様はすべてを持って来られた。

5) イザ 62:6-12 見張り人である皆さんに神様はすべてをみな持って来てくださる。

2. 最高のこと

- 1) 3庭 三つの庭がある教会。
- 2) 金土日時代 子どもたちが祈りを知らない。金土日時代が開かれる教会
- 3) 黙想時代 ネフィリムにみな奪われた。黙想時代を開く教会

3. 願われること 義人 神様が願われること。本当に福音を伝える弟子がいる所

全文打ち出し

ありがとうございます。日が経つにつれ、人々は自分の主張だけをします。自分たちが正しいとだけ言います。自分の思想が正しいと言います。日が経つにつれ、激しい対立をするようになります。それゆえ、わざわざが臨むのです。それゆえ、私たち、信仰の人々がどのように勝ったのかということでしょう。

[光のやぐら]

光のやぐらを建てました。この光だけが暗闇に勝てるからです。

[創 1:3]

この光は単なる光ではなく、創造の光です。この光をみことばで受けて、みことばで伝えた人々が、わざわざを止めるのです。

[イザ 60:1-2]

完全に滅びたときに、起きよ、輝け。

[ヨハ 1:11、14]

イエス様が光として来られました。そして、このみことばを握る者に神様の働きが始まるのです。

[I ペテ 2:9]

I ペテロ 2 章 9 節に、この光を宣べ伝えるために呼ばれた。

[24、25、永遠]

ですから、皆さんは祈りで始めることができるならば、この祝福を味わうようになります。みなさんの生活、一日を祈りで終えることができるならば、皆さんは必ず光のやぐらを建てるようになります。だまされずに、ほとんどみなこのように (24) していません。私を感じるの「あ、この人は祈りをたくさんする人だな」これよりは「祈りをとうていしていないのだな」このような感じをさらに多く受けます。さらに重要なことは、この3団体の祈り、その祈りを言うのではありません。24。必ず覚えてください。今何か定刻祈りをする団体が多いです。それを話すのではありません。24 です。24 この光のやぐらを味わうことです。

すると、確かにこの (25) 答えが与えられます。

すると必ず作品が出て来ます。(永遠)

[残りの者、残る者、残れる者、残す者]

それゆえ、皆さんは残りの者であり、残る者で、残れる者で、残す者の祈りが始まるのです。

これが1講です。この祝福を、これだけ味わっていただければ良いのです。すると待っていると与えられます。それゆえ、完全に異なります。ヨセフが奴隷として行きました。答えでしょうか、のろいでしょうか。

では、この祈りが分からなければ、解釈できません。何のために濡れ衣を着せられて監獄に行ったのでしょうか。答えでしょうか、のろいでしょうか。では、祈りが分からない人は、すべてみな 100%のろわれたと言うで

しょう。答えです。ヨセフはこの(24)中にいました。奴隷として行ったので、「私がああの上に乗って、ちょっと祈ります」できません、24。この(24)奥義がとても重要な奥義です。

それゆえ、レムナントは無条件に朝に起きて5分だけでも良いのです。ところで、このことをしません。一生、急いで起きます。一生、追われます。一生、眠いです。一生、忙しく走って行きます。そして、なにか忘れ物してまた戻って持って行って。祈る人は、何か落としたり忘れることがありません。そのまま(全部持って)行って。すると常に追われています。ある日、問題が急に生じます。とまどいます。そして、焦ります。それゆえ、脳と心臓が耐えることができないのです。すると、霊的問題が来てしまいます。すると、後には、永遠のこととつながるので仕方ありません。全くだまされずに、見つけ出してください。

そうするうちに、皆さんが何か問題が来れば、すぐ答えが見えます。本当に答えが見えて、本当に神様の働きが見えます。それゆえ、勝つのです。答えが来ないのに、私が耐えるのでしょうか。どのように耐えることができるのでしょうか。確実な神様の答えが見えたということです。勝つことができます。私たちに希望が確実ならば、いくらでも忍耐することができます。それゆえ、それを毎週握るのです。そうして、もう一つ必ず覚えるべきことがあります。年を少しとっている方々は、確かに一日に一度は深い祈りの中に入って行ってください。それでこそ、皆さんが病気になりません。ひとまず。レムナントはこの脳を生かさなければならぬので、25歳以上になれば無条件、脳は壊れます。そうであるために、深い祈りの中に入ってください。

[巡礼者の祈り]

それを昨日話しました。巡礼者の祈りと言いました。行かなければならないからです。難しい道を行かなければならないので。これ(1講)は残りの者の祈りですが、これ(2講)は巡礼者の祈りです。

[集中の奥義]

一日に一度は必ず集中の奥義を持ってください。

[光の経済]

このようになれば、多くの答えも与えられますが、皆さんにこれ(光の経済)が回復します。すべての信徒が人生の最後に一つ回復しなければならぬことが何でしょうか。教会を生かす経済、宣教経済、レムナント経済を回復してください。

[まことの復興 - 光の道しるべ]

では、今日、最後の時間です。しっかりと握ってください。皆さんは今からもう私たちにはまことの復興が起こらなければなりません。そうでしょう。私たちが皆さんが生きて行くのにも、まことの復興が起こらなければなりません。まことの復興が起こるためには、どのようにすれば良いのでしょうか。まことの復興を起こす理由は何でしょうか。そのときから光の道しるべを建てるのです。これがとても重要です。絶対道しるべとも言う、光の道しるべを建てるのです。

[創造的祈り - 再創造]

この祈りを指して、創造的祈りです。創造は神様がなさいますが、このときから私たちに再創造の祈りが始まるのです。皆さんの身分と権威によって、この祈りをするようになるのです。

質問?

では、この三つが分かれば、この(質問)部分が変わります。別に質問することがありません。そうでしょう。

試み?

この祝福を皆さんが持っていれば試みにあうことがあまりありません。試みになぜあうのでしょうか。答えを持っているのに。

答え?

この祝福を持っていれば、皆さんに、ある面では答えが何かと尋ねる必要もありません。では、今日、答えが何か知って行くべきですが、この場所に座っている皆さん自身が神様の答えなので、答えが何かを尋ねる必要もないでしょう。

それゆえ、極限状況の中で「主が私とともにおられるので」そう言いました。すべて(1、2、3講)答え持っている人がそのように表現しました。そうでなければ、皆さんは一つの教会で信仰生活をするのも難しいです。一つの教会で生まれて終わりまで信仰生活したら、奇跡です。あまりありません。できません。することはできないのです。何かことが起こっても崩れるでしょう。することができません。崩れます。なぜでしょうか。答えがないから。絶対にできないことが起こることです。このようになってしまいます。うまくいかなくなって。あるときは、引っ越しするでしょう。教会を止める人も多くて。教会に通って止める人が多いです。そうでしょう。多いです。「私は昔に何か、私は昔に執事だった、さらに私は長老もしたが…」日本に行つてときのことです。女性一人が韓国の人々が通り過ぎると、呼ぶのです。どこかの売春婦村に紹介しようと呼んで。見ると韓国の人です。女性が。この女性をつかまえて私たちのチームが福音を伝えました。この人がイエス様を受け入れました。わあわあ泣いて信仰告白しました。牧師夫人です。あきれることでしょう。そのような人が多いのです。答えがないと。

皆さんが行く所に人を生かすまことの復興が確かに起きなければなりません。こういう道しるべが、所々に建たなければならないのです。

口序論

では、そうするために、少し序論で見なければならぬことがあります。まず祈りの前に序論で必ず見なければならぬ部分が三つあります。

1. すべての人、こと、状況 (RT7)

では、日が経つにつれ、私たちの周囲は紛らわしいので、すべての人、すべてのこと、すべての状況を受容しなさい。レムナント7人がそうしました。そうでなければ、絶対に世界福音化できません。私たちのレムナントは必ず覚えてください。現場に行くと、すべての状況があります。受容、超越。

2. JX - 弟子と群衆

では、時間がないので。イエス・キリストは、二つの方法を使われました。何でしょうか。弟子と群衆。二つの方法を使われました。弟子に、群衆に多くの愛を施されました。しかし、みな逃げました。弟子。皆さんが常に覚えなければなりません。そうでなければ、皆さんは祈りの答えをみな逃します。

3. パウロ

パウロの告白を一度聞いてみる必要があります。

ピリ 1:12-14

ピリピ 1 章 12 節 14 節にパウロが監獄の中に今いる状況です。大部分の教会信徒が試みにあいました。ところが、パウロはここで何と言いますか。「神様の最も大きな計画が成し遂げられている」それで現実を見て、計算してはなりません。

ピリ 2:6-11

パウロに苦難が訪れました。何と言ったでしょうか。「キリストも苦難にあっただろう」ピリピ 2 章 6 節から 11 節。

ピリ 3:8-21

パウロが何と話したでしょうか。「今まで皆さんがたくさん学んだこと、それが答えなのか」そう言いました。「今までたくさん自慢したこと、それが答えなのか」と尋ねました。「私はちりあくただと考える」そう言いました。「何の価値もない。今まで地で得たこと、それが答えなのか。私は上から召された賞のために走って行きます。ローマの市民権が答えなのか。私たちは天国の国籍を持っているではないのか。今まで私たちが多くの働きをしたと言うが、そうなのか。私は成し遂げたのもなくて、すべてしたこともなくて。いまはキリストの手で捕えられた、それを捕らえに行く。私たちの国籍は天にある」背景を話しました。背景を話しましたから。

ピリ 4:4-13

そしてピリピ 4 章 4 節から 13 節に「喜びなさい」単に喜びなさいではなく、「もう一度言います。喜びなさい。何も思い煩わないで。感謝をもって神様に知っていただきなさい」問題が来たのに。「そうすれば、すべての理解を超えた神様の平安があなたがたの心と意思を守られる」それとともに「私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」重要なことはそうです。現住所を話しました。「私を強くしてくださる方によって」監獄にいるのではなく「私を強くしてくださる方の中で」暗闇がみな崩れます。世界福音化が起きたのです。

口本論_今

では、すると行く所ごとに光の道しるべを建てるのですが、どのように建てるのかということです。これがとても重要です。これを建てるべきでしょう。これを建てようとするなら、今、どんなことが起こっているのでしょうか。これを知ってください。契約を持つ皆さんが今祈るのに、どんなことが起こっているのでしょうか。

1. だまされないこと

最初、だまされないこと。

2. あらかじめ持つこと

二つ目、あらかじめ持つこと

3. 光の道しるべ

三つ目、だれも止めることができないことがあります。光の道しるべ。では、これで作ります。

1. だまされないこと [御座]

皆さんが今祈るとき、どんなことが起こるのでしょうか。だまされてはならない最初のことは何でしょうか。御座の働きが起こっています。イエス様が語られました。「40 日間、神の国のことを説明された」信じてください。皆さんが祈る時間にだまされなければ天の軍勢が動員されます。そうでしょう。では、ここでもう分か

れるのです。信じないので祈らないのです。祈らないのです。答えが死んでも来ません。教会復興、死んでもできなくて。世界教会は門を閉ざしています。正しい言葉続けていたのですが、門を閉めて。ヨーロッパ教会は門を閉めて長くなりました。アメリカ教会は何万個ずつ崩れていて。なぜでしょうか。信じていないから。神様がくださった最高の約束を信じません。それでは、何を信じるのでしょうか。御座の働きは起きています。信じるべきです。祈ってみてください。

1) 霊的なこと

それゆえ、霊的なことが先に起こってこそ、答えが始まるのです。そうでしょう。自殺をする人は、突然、道を通してコーヒー一杯飲んで「自殺してみようか」そのような人はいません。そうでしょう。霊的な死が先に来てしまったのです。霊的死が先に来てしまったのです。霊的な絶望が先に来ってしまうのです。私たちに答えが来るとき、霊的なことが先に来て。それゆえ、人間中心主義を使う必要はありません。競争もする必要はありません。皆さんは競争するものではありません。だますことをする必要もないです。霊的なこと。だまされな

2) 神様の計画

二つ目、どんなことが起こるのでしょうか。この御座の力を信じて祈れば、神様の計画が成り立ちます。私たちのことを成し遂げるのではありません。私にこの霊的なやぐら、光のやぐらが建ったので、神様の計画が成り立ちます。当然。必然。絶対。だれかをねたましく思うこともなくて。当然、必然、絶対。さらに重要なことが出てきます。皆さんが行くところはNobodyです。そうでしょう。Nobodyであるべきです。皆さん行く道は、Nothingです。何もないのが良いのです。なぜそうなのでしょう。御座の背景で。このとき出てきた単語が Heavenly という単語が出て来ました。このとき、何でしょうか。Thronely ということが出て来ました。このとき、何でしょう。Eternaly ということが出て来ました。

3) Throne

三つがすべてですが、一言で言えば、皆さんの背景は御座だということです。信じてください。ここで、すべての答えが出るか、出ないかということです。未信者と同じで。信じないから。言葉は信じるですが、信じません。皆さんが祈るとき、御座が動きます。そうでしょう。「終日終夜、主を休ませてはならない」そのままこうしてしまえば良いのです。

2. あらかじめ持つこと[神の国]

二つ目です。あらかじめ持つべきことがあります。祈るとき、どんな答えが与えられるのでしょうか。二つ目です。御座は背景です。そうでしょう。これから答えが来るのです。神の国が臨むのです。これが二つ目に起こることです。御座自体が私の背景です。ところで、神の国が臨みます。イエス様が話されました。祈りをどのようにしましょうか。「御国が臨みますように、と祈りなさい」、「あなたがたは、神の国と神の義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、すべてのことがついて来る」、「40日間神の国について説明された」そうしました。信じなければなりません。今、どんなことが起こっているのか。

1) あらかじめ味わう(7 やぐら)

祈りで神の国をあらかじめ味わうのです。これを七つのやぐら。これを味わうのです。祈りで。単に祈りで。

2) あらかじめ答え(7 旅程)

あらかじめ答えを受けます。それを何と言いますか。七旅程。あらかじめ答えを受けるので、答えを。すでに皆さんに神の国が臨んでいますから。これが答えでないように見えるでしょう。これが未信者であり、未信者

状態だということです。

3) あらかじめ - 1カ(7道しるべ)

あらかじめ力を受けて。それを指して7道しるべと言います。今から。

3. 光の道しるべ[神の国のこと]

このときから、道しるべという祈りが出てき始めます。いよいよ神の国、御座が背景ですが、その神の国のことが成り立ちます。これが道しるべです。では、神の国のことが成り立ってしまいました。どのように成り立つのでしょうか。絶対に絶対にのがしてはなりません。

1) 使 9:1-10、15

使徒 9 章 1 節から 10 節に、ダマスコに行くときにキリストに会ったのです。キリストで終わってしまうのです。すべてまだみな終わっていません。キリストで終わってしまうべきです。「あ、そうだったのだ!」答えがみな出てきてしまいました。15 節に、わたしの名を王たちの前に運ぶためにあなたを呼んだと言われています。それで良いでしょう。

使 11:25-26

その契約を握って、アンティオキア教会に行くのです。そこでバルナバに会いました。

使 18:1-4

そして、宣教地域に行ったのですが、マルコの屋上の部屋に参加していたプリスカ夫婦に会ったのです。ここで四つの道しるべが出てきます。

(1) カルバリの丘

そこに行ってもいないのですが、カルバリの丘の道しるべ。行かなかったのに。

(2) オリーブ山

オリーブ山の道しるべ

(3) マルコ

マルコの屋上の部屋の道しるべ

(4) アンティオキア(使 19:8)

いよいよ、アンティオキアの道しるべ

この四つが確実に建ったのです。その証拠、19 章 8 節に、神の国について大胆に説明した。今日、礼拝する時間に御座の背景で、神様は皆さんの人生を完全に責任を負ってくださいます。今、この時間に神の国が臨む時間です。皆さんが行く所にいよいよ道しるべが建つのですが、神の国のことが成り立ち始めるのです。終わりです。それゆえパウロは、これを知ってとても驚いて「私は今まで自慢したことをちりあくたと考える。今まで。損だと思う」こう言いました。ちりあくた程度ではありません。「損に思う」こう言いました。「私がこのことを知らなかった」ということです。そして「成し遂げたこともない。地のことは重要ではない。すでにみな地のことは、私がすべてしてみた。上から呼ばれた召しの賞のために。ローマ市民権は、違う。天の国籍。万物を従わせるその御名、私に与えてくださった」それゆえ、世界を征服するのです。

そして今、見てください。二つ目のことが起こり始めます。これがもう完全に光の道しるべ、絶対道しるべが建ち始めます。このように出て来ます。

2) 使 13:1-12

13 章 1 節から 12 節を見ると、完ぺきに聖霊の導きを受けます。聖霊が人、場所、ことを完全に導かれました。

すると、暗闇が砕かれてしまいました。絶対やぐらが建ちました。総督が。

使 14:14-26

では、詳しく見てください。このときから、14章14節から26節です。ここがどこでしょうか。パウロが福音を伝えて石に打たれて死にました。死んだのですが、人々がパウロが死んだと思ってあの丘に捨てました。ところが、パウロが起き上がりました。聖書に、このように記録されています。翌日、再び入った。なぜでしょうか。確かにすべきことがあるので。そこがどこでしょうか。その場所がリステラです。ここにだれが出て来ましたか。時代的な道しるべ。テモテが出て来ました。

使 15:36-41

そして、詳しく一度見てください。15章36節41節。では、バルナバとパウロが争いました。なぜ争ったのでしょうか。大きく争いました。パウロは「マルコを連れて行くことはできない」バルナバは「連れて行こう」ということです。ところで、神様はパウロの肩を持ちました。そうでしょうか。どんな違いがあるのでしょうか。バルナバはなぜ連れて行こうと言ったのでしょうか。自分の甥だったので。ところで、パウロはなぜ連れて行かないと言ったのでしょうか。絶対やぐらを建てなければならぬから。絶対道しるべを建てなければならぬから。光の道しるべを建てなければならぬから。そうでしょうか。後ほど、このマルコが回復したとき、連れて行きました。他のところ。よく見てくださいということです。皆さんが受ける祝福です。皆さんが行ったところごとに、まことの復興運動が起こらなければなりません。

使 16:6-40

では、いよいよ見てください。16章6節から40節です。とても重要な部分です。今、復興の光の道しるべを今建てる、その瞬間です。門が閉ざされたときは、行動してはなりません。門が閉ざされたので行動せずに祈るとマケドニアへ。それも幻の中で。もちろん、神様が働かれれば、コーヒーを飲んでいる時も働きが起こるでしょう。しかし普通、神様が特別な恵みを与えられるときは、祈る時です。それで行ったのですが、だれに会いましたか。リディアに会ったのです。そうした後に、悪霊につかれた者を治したのです。そうした後に、監獄に働きが起こったのです。皆さんにある祝福です。光の道しるべを建てなさい。光の絶対やぐらを建てなさい。

使 17:1-9

17章1節から9節を見てください。会堂に入りました。ここでキリストについて確実な説明をしました。ここがテサロニケです。単なるテサロニケではなく、ローマと高速道路が通じる国。テサロニケ。ここでほかのやぐらを建ててはなりません。キリストのやぐらを建てるのです。

使 18:1-4

では、いよいよ見てください。プリスカ夫婦に会うのです。今、完全に今、光の道しるべを建てています。

使 19:1-21

使徒19章さらに重要です。1節から7節を見ると、伝道からしたのではないですから。仕事からしたのでもありません。祈ってマルコの屋上の部屋に起こった働きがそのとおり起こりました。そして、ティラノに入りました。大騒ぎが起こりました、ティラノです。これが光の道しるべです。建ててください。必ずあります。

3)使 19:21

三つ目です。光の道しるべを、単に建てるのではなく、どのように建てるのかを見ましょう。「ローマも見なければならぬ」そうです。確実な神様の道しるべを建てるのです。神様が引用されます。

使 23:11

「勇気を出しなさい。ローマでも証ししなければならない」

使 27:24

「恐れてはならない。パウロよ。カエサルの前に立ちます」

ロマ 16:17-20

ローマ 16 章 17 節 20 節です。皆さんが行く道にサタンがひざまづくようになる働きが起こってしまいます。

ロマ 16:25-27

ローマ 16 章 25 節 27 節。隠しておいたことを皆さんに神様が訪ねて来てくださり与えられるのです。これが本当の答えです。隠しておいたことを。この祝福を受けるように願います。

私たちの教会の復興は心配しないでください。私たちは商売人ではありません。できるようになっています。これから、どんなことが起きるかです。復興させる目的ではありません。まことの復興が起こらなければなりません。わざわざ止めなければならないということです。

□結論

そうすれば重要な結論が出て来ます。どんな結論が出て来るのでしょうか。

1. 答えられる所

神様が答えを持って皆さんを訪ねて行かれます。神様が答えられる所。知っていてください。

2. 最高のこと

神様がまことのことを与えられる所。それを知らなければならないということです。

3. 願われること

神様が本当に願われること。

1. 答えられる所

1) 申 6:4-9

申命記 6 章 4 節 9 節です。レムナントを集めて、今まであったすべてを刻印させなさい。そうでしょう。ここに神様が働かれるのです。

2) I サム 7:1-15

すべての民はミツパに集まりなさい。ペリシテを言い訳にしてはならない。ミツパに集まって。主に集まりなさい。ここに神様が答えられます。

3) I 歴 29:10-14

では、よく見てください。ダビデが一生祈って神殿準備をするのです。その後を見ると神様はすべてをダビデにすべて持って行かれました。受けるためではありません。受けられないということがおかしなことだということです。皆さんが祈りもしなかったのに、神様が答えられるはずです。7・7・7 祈りだけしたのに、答えられるはずです。今年は逃さないでください。

4) II 列 6:8-24

いよいよなんでしょう。ドタンの町です。神様はすべてのことを持って来られました。絶対に皆さんのことです。

5) イザ 62:6-12

見張り人である皆さんに、神様はすべてのことをすべて持って行かれます。

2. 最高のこと

1) 3庭

では、神様はこの時から最高のことを持って行く所があります。三つの庭があるところ。三つの庭がある教会。

2) 金土日時代

子どもたち祈りを知りません。金土日時代が開かれる教会。覚えてください。

3) 黙想時代

ネフィリムにみな奪われました。黙想時代を開く教会。そちらにすべてのことをすべて持って行かれるはずで
す。

3. 願われること - 【義人】

神様が願われること。本当に福音を伝える弟子がいる所。ソドム、ゴモラ。神様が言われました。罪人のゆえに滅びたのではない。義人 10 人がいなくて滅びたと言われました。ソドム、ゴモラの中に福音を伝える義人 10 人だけいれば滅びなかったと言われました。そうです。私たちの教会の中に、今メッセージ聞いている皆さんの教会に、全世界に散らされた人々、メッセージを聞く皆さんに、本当に福音を伝える人がその教会にいるならば、神様はすべてを持って行かれるはずで
す。そうでしょう。「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます」

しっかりと握ってください。ほかのことは必要ありません。驚くべき働きは続くでしょう。この三つが皆さんが味わう... 本当に光の道しるべを作ってください。皆さん中に光のやぐら建ててください。それでこそ、暗闇に勝つことができます。そして、ほかのことは分からなくても光の経済を回復してください。教会を生かす、宣教できる、レムナントを育てることができる経済を回復するのです。この三つの祈りを 2025 年の今年、継続するのです。皆さんは勝利するようになります。しなくてもかまいません。しかし、するでしょう。なぜでしょう。証人として。

この祝福が皆さんと全世界すべての家族に臨むことをイエス・キリストの御名によって祝福します。ほかのことは嘘です。聞かないでください。しきりに嘘を聞くので、事が運ばないのです。イエス様が話されたこと光のやぐら。いまはこの光の経済を回復して、光の旅程に行くべきでしょう。所々、光の道しるべを建てなさい。暗闇は直ちに逃げるようになります。

三位一体の私たちの神様に栄光の拍手をささげましょう。神様に栄光をささげます。祈ります。

祈り

この奥義を回復する一年になりますように。だまされませんように。神様の奥義を見る霊的な目を開いてください。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン